

【企業動向調査（製造業）概況】

2023年1月～3月期の企業動向調査（市内製造業96社）を行った結果、業況判断指数D Iの平均は▲ 23.1ポイントとなりました。

前期調査結果（2022年10月～12月期：▲ 4.7ポイント）と比較して18.4ポイント悪化しました。その他経営上の問題については、「部材調達難は一向に解消されず、部材前倒し調整や納期が長期化しており、所要運転資金が増加している。」「電気代、ガス代の高騰が非常に悪影響を及ぼしている。また資材・原料の高騰も影響している。」などの意見がありました。

1. 今期調査結果は、「食品」はプラスポイント、「一般機械」は0ポイント、「電気機械」、「木材家具」、「その他業種」、「金属」はマイナスポイントとなりました。

業種別の業況判断前期比D I

食品	11.1	（前期比：マイナス	13.9）
金属	▲ 30.8	（前期比：マイナス	37.0）
一般機械	0.0	（前期比：プラス	18.2）
電気機械	▲ 38.5	（前期比：マイナス	20.3）
木材家具	▲ 80.0	（前期比：マイナス	80.0）
その他業種	▲ 25.0	（前期比：マイナス	11.7）

2. 次期予想D I（2023年4月～6月）

次期予想の平均は▲ 23.8ポイントで、今期調査結果の平均(▲ 23.1)より、0.7ポイント下回る予想となりました。

業種別の次期予想D I

食品	44.4	（今期比：プラス	33.3）
金属	▲ 38.5	（今期比：マイナス	7.7）
一般機械	▲ 38.5	（今期比：マイナス	38.5）
電気機械	▲ 16.7	（今期比：プラス	21.8）
木材家具	▲ 80.0	（今期比：プラスマイナス	0.0）
その他業種	▲ 27.3	（今期比：マイナス	2.3）

3. 経営上の主な問題点

「原材料・仕入品単価の上昇」が69.2%、「受注の減少」が52.3%、「人材不足（技術者等質的なもの）」が43.1%、「労働力不足（量的なもの）」が20.0%、「技術力の不足」が15.4%、「同業他社との競争激化」と「納期の短縮」が13.8%、「製品販売価格の低下」が7.7%、「金融難」が4.6%、「為替相場の変動」が3.1%、「人員過剰」と「取引先の海外シフト化」が1.5%となっております。

企業動向調査

【2023年1月～3月期<1期>】

【調査概要】

須坂市産業振興部産業連携開発課では、市内製造業の景気動向を探る手段として、年4回市内企業を対象にアンケート調査を実施しており、今回は2023年1月～3月期<1期>の業況について調査した。

【調査実施要領】

実施時期 2023年5月

対象企業 須坂市内または事業所を有する製造業企業 96社

回答企業数 65社（回答率 67.7%）

【調査結果】

自社業況判断（D I = 好転－悪化）

前期比：「好転」13.8%（前回21.5%）、「悪化」36.9%（前回26.2%）という割合でD Iは▲23.1となり、18.4ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」14.3%（前回21.5%）、「悪化」36.5%（前回33.8%）という割合でD Iは▲22.2となり、9.9ポイント悪化した。

次期予想：「好転」11.1%、「悪化」34.9%という割合でD Iは▲23.8（前回▲26.1）となり、前期より若干の好転を予想している。

受注引合（D I = 増加－減少）

前期比：「増加」10.9%（前回20.6%）、「減少」34.4%（前回28.6%）という割合でD Iは▲23.5となり、15.5ポイント減少した。

前年同期比：「増加」9.7%（前回26.2%）、「減少」38.7%（前回29.2%）という割合でD Iは▲29.0となり、26.0ポイント減少した。

次期予想：「増加」16.1%、「減少」37.1%という割合でD Iは▲21.0（前回▲24.6）となり前期より若干の減少を予想している。

生産量（D I = 増加－減少）

前期比：「増加」12.5%（前回17.5%）、「減少」34.4%（前回27.0%）という割合でD Iは▲21.9となり、12.4ポイント減少した。

前年同期比：「増加」12.9%（前回22.2%）、「減少」38.7%（前回38.1%）という割合でD Iは▲25.8となり、9.9ポイント減少した。

次期予想：「増加」19.4%、「減少」30.6%という割合でD Iは▲11.2（前回▲27.0）となり、前期より増加を予想している。

原材料・仕入品単価 (D I = 低下－上昇)

前期比：「低下」0.0% (前回1.6%)、「上昇」54.0% (前回73.4%) という割合でD Iは▲54.0となり、17.8ポイント低下した。

前年同期比：「低下」3.3% (前回1.6%)、「上昇」75.4% (前回87.5%) という割合でD Iは▲72.1となり、13.8ポイント低下した。

次期予想：「低下」1.6%、「上昇」45.9%という割合でD Iは▲44.3 (前回▲56.2)となり、前期より原材料・仕入単価の低下を予想している。

製品販売価格 (D I = 上昇－低下)

前期比：「上昇」31.3% (前回26.6%)、「低下」0.0% (前回3.1%) という割合でD Iは31.3となり、7.8ポイント上昇した。

前年同期比：「上昇」50.0% (前回45.3%)、「低下」3.2% (前回4.7%) という割合でD Iは46.8となり、6.2ポイント上昇した。

次期予想：「上昇」24.2%、「低下」6.5%という割合でD Iは17.7 (前回25.0)となり、前期より製品販売価格の低下を予想している。

資金繰り (D I = 好転－悪化)

前期比：「好転」9.2% (前回1.6%)、「悪化」20.0% (前回19.0%) という割合でD Iは▲10.8となり、6.6ポイント好転した。

前年同期比：「好転」6.3% (前回4.8%)、「悪化」27.0% (前回23.8%) という割合でD Iは▲20.7となり、1.7ポイント悪化した。

次期予想：「好転」12.7%、「悪化」23.8%という割合でD Iは▲11.1 (前回▲19.0)となり、前期より資金繰りの好転を予想している。

所定外労働時間 (D I = 増加－減少)

前期比：「増加」4.6% (前回7.7%)、「減少」27.7% (前回35.4%) という割合でD Iは▲23.1となり、4.6ポイント増加した。

前年同期比：「増加」6.3% (前回7.7%)、「減少」28.6% (前回32.3%) という割合でD Iは▲22.3となり2.3ポイント増加した。

次期予想：「増加」7.9%、「減少」23.8%という割合でD Iは▲15.9 (前回▲20.0)となり前期より労働時間の増加を予想している。

収益率 (D I = 上昇－低下)

前期比：「上昇」7.8% (前回8.1%)、「低下」37.5% (前回41.9%) という割合でD Iは▲29.7となり、4.1ポイント上昇した。

前年同期比：「上昇」8.1% (前回9.7%)、「低下」53.2% (前回51.6%) という割合でD Iは▲45.1となり、3.2ポイント低下した。

次期予想：「上昇」11.5%、「低下」39.3%という割合でD Iは▲27.8 (前回▲27.4)となり、前期より若干の収益率の低下を予想している。

経営上の問題点（複数回答）

1位	原材料・仕入品単価の上昇	(→ 69.2%)
2位	受注の減少	(↑ 52.3%)
3位	人材不足（技術者等質的なもの）	(↓ 43.1%)
4位	労働力不足（量的なもの）	(→ 20.0%)
5位	技術力の不足	(→ 15.4%)
6位	同業他社との競争激化	(↑ 13.8%)
6位	納期の短縮	(→ 13.8%)
8位	製品販売価格の低下	(↑ 7.7%)
9位	金融難	(↓ 4.6%)
10位	為替相場の変動	(↓ 3.1%)
11位	人員過剰	(↓ 1.5%)
11位	取引先の海外シフト化	(→ 1.5%)

※ 「↑」 前回の順位から上昇 「→」 前回の順位から変動なし
「↓」 前回の順位から下降

業種別自社業況判断／食品

前期比：「好転」33.3%（前回37.5%）、「悪化」22.2%（前回12.5%）という割合でD Iは11.1となり、13.9ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」33.3%（前回37.5%）、「悪化」22.2%（前回25.0%）という割合でD Iは11.1となり、1.4ポイント悪化した。

次期予想：「好転」44.4%、「悪化」0.0%という割合でD Iは44.4（前回0.0）となり前期より好転を予想している。

業種別自社業況判断／金属機械

前期比：「好転」7.7%（前回12.5%）、「悪化」38.5%（前回6.3%）という割合でD Iは▲30.8となり37.0ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」15.4%（前回18.8%）、「悪化」38.5%（前回18.8%）という割合でD Iは▲23.1となり、23.1ポイント悪化した。

次期予想：「好転」0.0%、「悪化」38.5%という割合でD Iは▲38.5（前回▲37.5）となり、前期より若干の悪化を予想している。

業種別自社業況判断／一般機械

前期比：「好転」30.8%（前回18.2%）、「悪化」30.8%（前回36.4%）という割合でD Iは0.0となり、18.2ポイント好転した。

前年同期比：「好転」23.1%（前回18.2%）、「悪化」15.4%（前回36.4%）という割合でD Iは7.7となり、25.9ポイント好転した。

次期予想：「好転」0.0%、「悪化」38.5%という割合でD Iは▲38.5（前回▲9.1）となり前期より悪化を予想している。

業種別自社業況判断／電気機械

前 期 比：「好転」0.0%（前回18.2%）、「悪化」38.5%（前回36.4%）という割合で
DIは▲38.5となり、20.3ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」8.3%（前回18.2%）、「悪化」41.7%（前回63.6%）という割合で
DIは▲33.4となり、12.0ポイント好転した。

次 期 予 想：「好転」8.3%、「悪化」25.0%という割合でDIは▲16.7（前回▲45.4）と
なり前期より好転を予想している。

業種別自社業況判断／木材家具

前 期 比：「好転」0.0%（前回50.0%）、「悪化」80.0%（前回50.0%）という割合で
DIは▲80.0となり、80.0ポイント悪化した。

前年同期比：「好転」0.0%（前回25.0%）、「悪化」100.0%（前回50.0%）という割合で
DIは▲100.0となり、75.0ポイント悪化した。

次 期 予 想：「好転」0.0%、「悪化」80.0%という割合でDIは▲80.0（前回▲50.0）
となり、前期より悪化を予想している。

Q10 日銀松本支店が4月4日に発表した、企業短期経済観測調査(短観)によると、全産業の業況判断指数(DI)は、前回調査(12月)からマイナス6ポイント悪化のプラス1となり、2期ぶりの悪化となりました。製造業(DI)は、9ポイント悪化のマイナス4、非製造業(DI)は、3ポイントプラスの8。自社の景況感をどのように感じておられますか。

A 「変わらない」35.4%、「悪化している」26.2%、「今はないが、今後悪化が見込まれる」21.5%、「今はないが、今後好転が見込まれる」10.8%、「好転している」6.2%。

Q11 リスキリング（新しい職業に就くために、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する/させること）を導入していますか。

A 「導入していない」66.2%、「検討中」27.7%、「導入している」、「無回答」とともに3.1%。

Q12 (1)導入していると答えた方にお伺いします。具体的にどのような導入をしていますか。

A 「外部セミナー、社内勉強会。」、「従業員に対し社外研修を紹介し、希望する研修は原則参加を認めている。費用は会社負担としている。」。

Q13 その他経営上の問題についてご記入ください。

A 「原材料は上がっていて製品価格にも転嫁できているが、原材料価格が上昇しているだけなので、利益がでるわけではない。この機会に工賃を上げられるよう交渉していきたい。」、「高齢化による人事対策。」、「値上交渉が難しく、収益力が原価高により悪化している。」、「受注動向が見えなく、かつ不安定である。新卒の採用がここ数年困難である。」、「納期遅れが続いていた部品(マイコン)の仕入れ先から。突然大量(数か月分をまとめた納品)の納入予定が通知されるなど、大企業による当方の生産計画、資金計画を無視した対応に翻弄されている。」、「とにかく人材不足で毎月納期遅れとなり注残が積み重なってしまう。人材派遣とはレートが合わず導入できない。親会社との単価交渉で単価アップをして頂ける予定ですが、こちらの希望額とまではいかずまだまだ厳しい状況。」、「原材料価格の上昇を売価に少しずつでも反映させていくことが課題だと思う。」、「原材料の高騰が止まらず、価格転嫁をしても間に合わない状況で困っています。」、「世界情勢の不安定などにより、先行きが見通せません。また、技術力や多様性などの人の問題が今後もネックになりそうです。」、「半導体関連の動きが低迷しており、先行き不透明。回復見込みはあるものの、時期が不透明。電気料等生産コストが上昇している。」、「採用力強化、人材育成の取り組み。高付加価値経営への取り組み(DX・デジタルを活用した仕事のプロセス変革、生産性向上)。」、「年度が変わって、お客様の予算が確定するまで受注量が減り経営が安定しない。予算が確定した後は、受注が集中し、すべてを対応するのが難しい。受注のバランスコントロールの対応が急務。」、「エネルギー価格の上昇が経営上の大きな問題になっていきそう。」、「人材不足と採用とその対策。半導体・部品不足起因の客先生産調整による受注への影響。納期延長による設備投資の遅延。購入品金額増加、エネルギーコスト増加による利益逼迫。」等。





